

## 家庭内の事故を防ぎましょう。

お子さんの不慮の事故は、家庭内で起きる割合が高く、保護者の注意で予防できるケースが大部分です。

新生児や乳児期には「窒息」に注意しましょう。「誤飲」はタバコ、化粧品、医薬品、ピーナッツなどが多く、手の届く場所には絶対に置かないようにしましょう。「転落」はベビーベッドの柵の閉め忘れや階段、ベランダからが多く、柵などをつけましょう。

「溺死」は浴槽でのケースがほとんどです。湯は残さず、浴室のドアは必ず閉めましょう。「やけど」は歩き始める頃のお子さんに多く、ポットややかんの熱湯、汁物、調理の油などキッチンや食卓では十分注意しましょう。

〒252-0326相模原市

南区新戸5195-4

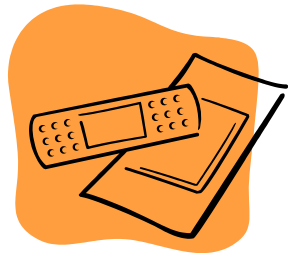
サンガこども園



## きず 傷のお話

お子さんの傷は気になるものです。まずは水でよく洗い、砂や泥が傷口に入っている場合はきれいに洗い流しましょう。洗った後に消毒液を1回だけ使います。次に切り傷の場合は、傷口が広がったままにならないようにしっかりとバンドエイドで固定します。お風呂に入る場合は、バンドエイドはつけたままで、お風呂から上がった後に新しいバンドエイドに交換しましょう。

以前は「傷は乾かして絆ガタを作ってなおす」方が早くなおると言われていました。しかし、絆ガタは皮膚が死んでしまったものなので、絆ガタからは新しい皮膚は再生しないことがわかってきて、今は傷口から出る液(浸出液)を傷口に残し、傷を湿らせてなおす方が早くなおると言われています。



## お子さんと遊びましょう。

### ～病気でないのに元気がないお子さん～

元気がなく具合が悪そうなので病院でみてもらっても、特に悪いところはないというお子さんが時々います。いつも何となく元気がなくて、風邪をひきやすい、すぐに疲れを訴えるなど、親から見ると、そんなお子さんは気になります。

医学的には「虚弱児」という定義はないようですが、一般的には病気にかかりやすく、かかると重症になり、治りにくいお子さんのことを言います。

風邪をひきやすい、疲れやすいなどの症状は、健康で元気なお子さんにもみられます。体の弱いお子さんとの間にはっきりとした境界線はありません。一般に体の弱いお子さんは、さまざまな刺激に対して反応が敏感なのです。

体の不調が続けば、誰より不安に感じるのはお子さん本人です。周囲で体の弱い子として過保護に扱うと、お子さんは意識しすぎて悪影響を与えることもあります。逆に無関心すぎても情緒が不安定になります。

まず、お子さんに現れている症状が、特別な病気の徴候ではないことをはっきりさせてから、日常生活のなかで、体を使った遊びを工夫して取り入れ、基礎体力をつけましょう。

